

令和6年度 学校自己評価システムシート（私立 立教新座高等学校）

目指す学校像：キリスト教に基づく人間形成を実践し、自由と自律を尊重する開かれた学校を目指す。 達成度：A ほぼ達成（8割以上） B 概ね達成（6割以上） C 変化の兆し（4割以上） D 不十分（4割未満）
重点目標：1 興味や関心を伸張して、自主的にテーマを持って真理を探究する力を養う。 学校関係評価：学校関係者 9名 生徒 0名 事務局（教職員）4名
2 グローバルリーダーにふさわしい国際感覚を備えた人物を育成する。
3 他者を尊重し、学校生活を通じて共に成長する他愛に満ちた人格を育む。

学 校 自 己 評 価						学校関係者評価
年 度 目 標			年 度 評 価 （ 3 月 3 1 日 現 在 ）			実施日2025年6月11日
番号	課題	課題に対する取り組み	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・一貫連携教育の充実	・立教大学教員によるプログラムの継続と充実 ・特別聴講生制度・GLP受講制度の継続と充実 ・立教大学の各種キャリア教育プログラムの充実	・高1立教大学説明会、立大教員による特別授業 ・高2、高3学部学科説明会実施 ・立教大学特別聴講生3講座(4名)、GL101科目(19名)受講 ・大学キャリアセンターの協力を得て高1キャリア教育の実施	B	・各種プログラムの継続と充実 ・参加者増加に向けての案内の工夫	・生徒が主体的に進路を考える機会が望まれる。 ・進路選択の多様さを意識させるため、他大学進学した卒業生の声を聞く機会があると良い。 ・大学と関わることは学院の一員としての意識づけになる。 ・早期にキャリアを意識させている点は評価できる。
	・卒業論文指導	・卒論関係講座数の確保 ・指導や評価のあり方について教務部や教育検討委員会等で継続審議 ・問題発見や課題解決、表現などの指導	・卒論対応講座18、卒論演習講座17、計35講座の確保 ・卒論指導を卒論演習講座に一本化する方向性で決定 ・教員向け共通テキストの導入決定		・卒論演習講座に原則一本化の実施 ・教員向け共通テキストの導入 ・指導や評価のあり方について継続審議	・推薦に関わる卒論制度は都度更新が必要であり、生徒側からの制度へのフィードバックがあっても良い。 ・自発的に打ち込めていない生徒が見られる。 ・卒論指導は教員の負担が大きいが、継続が望まれる。 ・特色ある取り組みとして卒論を実施できている。
	・教職員研修	・研修への参加奨励	・教科、部署、部活動等における研修に参加 ・人権教育推進委員会主催講演会「人権教育としての包括性教育～「命（いのち）の安全教育」について考える～」受講 ・ハラスメント防止対策委員会主催講演会「様々な課題を持つ生徒への対応～多様性に配慮したコーチング～」受講 ・学院主催のハラスメントに関するオンライン研修（2回）、内部公益通報の取扱いに関するオンライン研修受講 ・応急処置研修会、心肺蘇生法実習の実施		・研修の充実 ・研修を受けやすい環境の整備 ・非常勤講師を含む教職員全体に対する研修への参加奨励	・生徒にも互助と自衛の意識を広める取り組みが望まれる。 ・研修の充実は教育の向上に繋がる。 ・応急措置、心肺蘇生法の習得は重要である。 ・多様なラインナップの研修は時代のニーズに合致する。 ・高校生の心のケアはもちろん、教職員の SOS を受け止める必要性を強く感じる。 ・多様性に係る研修は重要でありかつ必須と考える。 ・ハラスメント研修は非常勤教職員の受講も徹底するべき。 ・社会的にも重要な研修プログラムが充実している。
	・教育環境の整備	・ICT機器を活用した教育活動の充実 ・教務新システムBLENDへの移行 ・出席簿のデジタル化 ・ICT環境の整備 ・各施設・設備・安全および老朽化対策	・BYODによる端末準備を推進、ICTを活用した教育活動の展開 ・出席簿のデジタル化 ・希望する教科・科目による定期試験答案のデジタル返却 ・教務システムBLENDを利用した通知表デジタル開示、メール配信 ・ICT環境の整備(ICT支援員の増員、基幹サーバー更新、PC教室3・4・5更新) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(セントポールズ・フィールドの改修)		・BLENDの利用拡大 ・配布資料のペーパーレス化 ・ICT環境の整備(教員用iPad更新) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(セントポールズ・ジムの空調更新、3号館放送室放送卓更新)	・BLENDの利便性は保護者にも浸透してきた。 ・セントポールズ・ジムに大型扇風機があると換気面でも改善される。 ・生徒は課題に取り組む際、紙を使う部分とiPadを使う部分とを上手く使い分けている。 ・BLENDを通じた案内のペーパーレス化や成績表の電子化などは保護者にとって非常に有用である。 ・ICT環境の整備が着実に進み、安全性を確保しつつ老朽化した施設設備の更新も行われている ・文部科学省が推進しているGIGA構想スクールを私学としての独自の視点で全学年の教育活動に展開している。
2	・人権教育やボランティア活動	・人権教育の充実 ・ボランティア活動の奨励、機会の提供 ・いじめ・ハラスメント問題の啓蒙活動 ・いじめ防止対策の充実	・生徒向け人権週間(6月)のチャペルアワー講話 ・学年ごとにテーマを決め人権教育実施(1学期末、高3のみ2学期) ・いじめアンケートを年2回実施 ・教員対象の人権研修、ハラスメント防止研修実施	B	・人権教育の継続 ・実施可能なボランティア活動の機会提供 ・いじめ・ハラスメント問題の認識深化に向けた啓発活動	・人権教育、いじめ・ハラスメント問題は生徒に伝え続ける必要がある。 ・学院ハラスメント相談外部窓口の有効活用が望まれる。 ・立教大学ボランティアセンターとの相互連携により、学院あがてのボランティア活動の機会が増えると良い。
	・情報リテラシー教育	・インターネットの安全な利用やマナーの指導	・全学年、外部講師による講習会を実施 ・保護者対象の講習会を実施		・講習会の継続	・利便性の裏に潜む危険性についての指導を望む。 ・インターネットの安全な利用やマナーについては、生徒及び保護者に対して意識を高めた。 ・学年ごとにテーマを設定し、専門家による講習会を実施している点は評価できる。
	・グローバル教育 ・リーダーシップ育成	・本校のグローバル教育の推進 ・派遣留学学校及び留学生受入校との良好な関係維持 ・リーダーシップ教育の充実	・留学生(長期:米国1名、短期:英国3名)の派遣 ・英国サマースクール、ギャップイヤー留学、UK-JAPAN Young Scientist Workshop、ブリティッシュヒルズ英語研修、英語科、理科、宗教科海外研修旅行の実施 ・St. Paul's School、Fu Jen Sacred Heart Senior High School、a k Oi Secondary Schoolからの留学生の受入 ・高1,2学年、文化部・体育部でリーダーシップ研修実施 ・リーダーシップ育成PT主催による講演会実施 ・高2校外研修旅行における高1への発表活動		・派遣留学学校の維持・充実 ・留学生受け入れ	・海外研修の機会が増えたことは評価できるが、費用面と実施時期の面で参加しにくい場合があるため、普段の学校活動の中に国際交流を組み込めないか。 ・様々なプログラムを通してグローバル教育を推進した点は評価できる。 ・アジア地域との交流が少なく、模索の必要性を感じる。 ・早い段階で独自のリーダーシップ教育を取り入れ、年代・組織別に研修を展開している点は評価できる。
3	・学校生活の支援	・学友会活動のサポート ・多様な進路に対する支援 ・スクールカウンセラーとの連携 ・特別支援教育の充実 ・学校活動の可視化	・高1,2学年キャリア教育実施 ・生活のアンケートを各学期に実施。心配な生徒についてはその後担任面接、さらにはスクールカウンセラー等の面接実施 ・特別支援教育委員会主催の教職員向け講演会を実施 ・特別支援対象の生徒のスクリーニングの実施 ・広報誌のweb化 ・Facebook、Instagramの充実	B	・保護者会や同窓会との連携強化 ・広報活動の継続と充実	・担任の先生には細やかに対応していただいている。 ・個々の生徒に応じた多様なサポートの継続を望む。 ・環境が変わる時期にカウンセラーがBRENDで配信してくださることで、生徒だけでなく保護者も安心できる。 ・ニーズに応えた積極的なSNSの利用は有効である。 ・特別支援教育の充実は大いに評価できるが、「特別支援」という言葉が「障害を持つ児童・生徒への教育」を想起させるため、別の表現が望ましい。